

港区港楽学区

震災避難行動マップ

わが家の津波避難先

① _____

② _____

各家庭で津波避難先を書き込みましょう

●津波避難ビル

(地震が収まったあと、津波による危険から命を守るために滞在する施設)

施設名称・マンション名	収容人数
① 港楽小学校	1,262
② 東港中学校	2,384
③ 港生涯学習センター	428
④ シティ・ファミリー港楽	419
⑤ 新港栄荘	1,181
⑥ 港楽荘2棟	88
⑦ 港楽荘3棟	88
⑧ 港楽荘4棟	51
⑨ 国際留学生会館	1,200
⑩ 名古屋税関第一港陽町宿舍(若鯨寮)	156
⑪ 学校法人日産学園専門学校日産愛知自動車大学校	300
⑫ 港区役所総合庁舎	1,440
⑬ 東邦ガスエネルギーセンター	100
⑭ ららぽーと名古屋みなとアクルス立体駐車場	12,000

●指定避難所一覧 (災害のおそれなくなったあと、自宅での生活が困難な場合に滞在する施設)

施設名称	避難場所	収容人数
① 港楽小学校	体育館、特別活動室、トワイライトプレイルーム	415
② 東港中学校	体育館、格技場、ランチルーム、視聴覚室、第1・第2音楽室	774
③ 港楽コミュニティセンター	ミーティングルーム	45
④ 港生涯学習センター	体育室	358
⑤ 慶和幼稚園	教室、体育館	230
⑥ 邦和スポーツランド	管理棟2階廊下、和室、No.1・No.2ミーティングルーム、管理棟3階廊下、教室1・3A・3B	284

●AED設置場所

港楽小学校
東港中学校
名港線港区役所駅
トヨタカローラ愛知港店
港区在宅サービスセンター
港文化小劇場
葬儀会館ティア名港
愛知銀行港支店
名港線築地口駅
名港保育園
みなと診療所
あずま老人保健施設
中京銀行港支店
学校法人日産学園専門学校日産愛知自動車大学校
邦和スポーツランド
港保健センター(国際留学生会館内)
国際留学生会館
慶和幼稚園
港楽コミュニティセンター
港生涯学習センター

【凡例】

- 津波避難ビル
- 指定避難所
- 広域避難場所
- 一時避難場所
- 一時集会所
- AED
- 看板
- 狭小道路
- 主な避難経路
- ブロック塀
- 自動販売機
- 公衆電話
- 公衆トイレ
- 街頭消火器
- 防災倉庫
- 地域防災協力事業所



地震発生! 災害時の対応

港区港楽学区 災害時の特性と対策

南海トラフ巨大地震が発生した場合、震度6強の非常に激しい揺れが想定されます。**自分の身を確実に守るため**、日頃から**家具の転倒防止**などの耐震対策に努めましょう。

また、津波が他の地区よりも早く到来します。**名古屋港には最短96分(※)**で津波が到達し、その後**最大3.6mの津波**がさかのぼります。津波が見えてからでは避難が間に合わないの、限られた時間を有効に使って津波避難ビルへ避難しましょう。

液状化現象も起きる可能性も高く、**堤防の沈下等で川の水が氾濫する**危険、建物が傾いたり、路上に泥水が溢れ出して通れなくなる恐れがあります。これらを踏まえ、**適切な避難先、そこまで安全にたどり着くための経路を日頃から考えておきましょう。**

(※)30cmの津波が到達する時間。30cmの津波でも、人は早い流れに巻き込まれて流される可能性があります

身の安全の確保

- ◎倒れそうなタンスなどの家具、ガラス戸から離れる
- ◎机の下に隠れて、低い姿勢で身を守る
- ◎安全に消せる場合は火を消す
- ◎可能であれば、扉を開けて出口を確保する
- ◎屋外にいる場合は、建物やブロック塀など、倒壊の危険がある場所からすぐ離れる



避難の際は、近隣で助けを求める方がいないか、大きな声で確認しながら避難しましょう!

- ◎家族、隣近所への声かけ、安全・安否の確認、情報交換
- ◎家屋、近所の被害状況、危険度の確認
- ◎火元を消す・ブレーカーを落とす
- ◎ガス・水道の元栓を閉める
- ◎扉を開けて出入口の確保
- ◎テレビやラジオ等で正しい情報を収集

津波避難ビルを 目指して 避難開始

- ◎逃げ遅れないように早めの避難開始
- ◎隣近所へ大きな声で声かけしながら、あらかじめ決めた津波避難ビルへ避難
- ◎持てる量の非常持出袋を持って避難
- ◎落下物など周囲の危険に気をつけて避難

揺れがおさまった

津波から安全に避難するための5つのポイント

- 1 揺れが収まったら高台へ。時間がなければ津波避難ビルへ避難!
- 2 隣近所へ声をかけ**原則徒歩で避難!**
- 3 高齢者や障がいのある方などの避難支援を!
- 4 **引き返さない!**安全確認が済むまで避難継続を!
- 5 海岸や川沿いには**絶対近づかない!**



津波発生時の地域での声かけ・避難支援

隣近所など地域での「声かけ」と「避難支援」が大事な命を救います。

地震の揺れがおさまったあとは、**地域の皆さんで声かけ**をし、いち早く避難行動が取れるよう協力しましょう。

また、日頃から一人で避難できない方(高齢者・障がいのある方など)を把握しておきましょう。

情報の入手や判断の難しい方

(例えばこんな方)

目が見えない方、耳の聞こえない方、認知症の方、知的障がいのある方、日本語が苦手な外国人、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯など

(対応方法)



移動が難しい方

(例えばこんな方)

普段、杖・押し車・車椅子などを使っている人、寝たきりの人、けが人、病人、妊婦さんなど

(対応方法)



お住まいの方

- 1 町内の組単位で「声かけ」して無事を確認しあう
- 2 無事が確認できた住民同士で、無事が確認できないお宅へ「大きな声で」声かけを繰り返す
- 3 一人で避難できない方を助けながら、近くの津波避難ビルへ避難する
- 4 津波到達予測時刻の**30分前までに避難完了**する

集合住宅にお住まいの方

- 1 お住いの階ごとに「声かけ」して無事を確認しあう
- 2 無事が確認できた住民同士で、無事が確認できないお宅へ「大きな声で」声かけを繰り返す
- 3 一人で避難できない方を助けながら、住宅の3階以上へ津波避難する
- 4 津波到達予測時刻の**30分前までに避難完了**する

火災などの危険がない場合、3階以上にお住まいの方は、一人で避難できない方を助けたら「在宅避難」を! 避難してくる近所の住民を快く迎えましょう

同じ階の住民の無事を確認できたら、上階・下階の住民の方が無事かどうかの確認、避難支援を!

災害の危険解消

自宅での生活が可能か



津波警報解除
避難勧告解除